＜共同研究プロジェクト紹介＞

島津製作所の総合的研究

龍谷大学経営学部教授
由井　浩

本共同研究は、2009 年度の共同研究会およびその成果の一部である「京都産業学共同研究＜記録＞」（2010 年 3 月刊）、さらに 2010 年度における「島津製作所の経営学的研究」（『京都産業学研究』第 9 号）などの成果を受けて、2011 年度も実施したものです。以下ではこれまでの研究結果を再確認した後、本年（2011）度の研究結果を要約的に紹介します。

1．前年度までの研究経過の概要

2009、10 両年度の研究内容は次の諸点についての検討でした。
①企業概要と経営の推移・特徴・課題　②経営の部門（専門分野）別検討、③トップマネジメントの方針と経営戦略、④企業間関係（島津工業会の史的分析を行い、それを背景として踏まえつつ生産の海外戦略とコストダウン戦略など、企業戦略全体における協力工場関係の検討）、⑤京都企業の 6 特徴と島津製作所、⑦その他

2．本年（2011）度の研究概要

本年度は、研究グループのメンバー間に加えて、もうひとつの研究グループである「京都企業の人事・労務管理の特質に関する共同研究」プロジェクトと連携しながら研究を進めました。具体的には 5 回の研究会を実施し、報告とそれに関する質疑・討論を行いましたが、それぞれの概要は以下のとおりです。

第 1 回（2011 年 4 月 12 日）

（1）島津製作所の人事労務を巡って

三宅正伸氏が資料に基づいて報告し、続いて質疑を行いました。

（2）共同研究の推進について

第 2 回（2011 年 6 月 14 日）

（1）島津製作所のコーポレート・ガバナンスについて

報告者の細川孝氏が資料に基づいて報告した後、質疑を行いました。

（2）研究成果の一部としてのブックレットの作成についての検討

第3回（2011年9月27日）

（1）初期の島津製品――島津製作所の原風景をみる――

報告者：小長谷大介氏

島津製作所の創業初期から明治・大正期にかけての技術と人を中心に報告の後、技術と技術者・経営者の養成、大学との連携などについて質疑を行いました。

（2）共同研究会の経過概要に関する報告と検討

第4回（2011年11月1日）

（1）報告1：島津製作所の人事労務をめぐっての考察（その2）

報告者：三宅正伸氏

同製作所の「人事労務ヒアリング」結果の説明と質疑を行いました。

（2）報告2：島津製作所における戦後の業容拡大と組織形態の変遷

報告者：山西万三氏

同製作所が事業部制を採用するに至るまでの組織形態の変遷について資料に基づき報告の後、質疑と議論を行いました。

第5回（2011年12月13日）

（1）ブックレットの作成について

発行日および執筆要領の詳細等について最終的な検討を行いました。

（2）公開研究会「島津製作所の総合的研究」の開催について

日時（予定）：2012年2月18日（土）午後4時開始

以上の他、公開研究会（2012年2月18日）を実施しました。本共同研究は2011年度をもって終了しますが、次年度以降については新たな研究会として継続されることが期待されます。終わりに、学外の研究アドバイザーおよび共同研究者の方々、学内の各研究メンバーに深く感謝いたします。